

平成30年7月2日(月)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市

想像力と直観力

校長 上田 祥市



朝学校に来ると、1年生が大切に育ててきたアサガオが青紫や赤紫の花を一斉に咲かせています。登校してくる1年生が目を輝かせて自分の鉢に駆け寄ってくる姿を想像すると、ワクワクします。例年よりずっと早い梅雨明け。もうすぐ一学期が終わります。



さて、6月には高学年の移動教室がありました。六年日光移動教室も五年ハヶ岳移動教室も、三日間共に天候に恵まれ、大自然の中、命のエネルギーをたっぷり吸い込んで、思い出に残る宿泊行事になりました。夜になると、東京では見ることのできない星空が広がります。日光では、星空パーティで踊り疲れた子供たちがスキー場の草場に腰かけ空を見上げると、宵の明星金星が輝き、時間とともに次々と星が現れてきます。ハヶ岳では、キャンプファイヤーが終わり宿舎へと向かう道を月が明るく照らしてくれます。

昔の人は、星の位置を見て方角を知るとともに、星空に神様たちの物語を繰り広げていきました。日本では、月の満ち欠けする姿にはかなさを感じ、満月の夜を円満の喜びとしてお月見が始まりました。大自然と自分との間に隔てるものはなく、山を見てはその緑の深さに命の深さを感じ、海を見てはその青の深さに命の源を感じ、空を見てはその雄大さに生かされる命への感謝を感じる。そのかわりの中で、人は想像力を育み、直観力を磨いてきたのだと思います。

インターネットの時代。わからないことはすぐに検索すれば答えが見つかる時代になりました。そこに想像の時間が入り込む隙間がありません。想像力が奪われる時代かもしれません。

先日、京都大学の山極寿一総長の「学生諸君」という記事を読みました。学生たちに「インターネットの世界に閉じこもらず、外へ出ておもしろいチャレンジをしよう。」と呼びかけ、「これからの時代を生き抜く学生たちにとって、僕は『直観力』が非常に重要だと考えています。無意識的に物事を感じ取る『直感力』とは異なり、経験に基づいて意識的、論理的に思考、判断するのが『直観力』です。」と語ります。

私が最も共感したのは、次の言葉です。「僕はいまの学生にとって、自分の身体で体験し、感じたことをどんな言葉でもいいから手を動かして書くということが、非常に大事だと考えています。IT(情報技術)が当たり前の時代に育ったいまの若者は、知識は人から人へ伝達されるものではないと思っている。欲しい情報はインターネットで検索すればすべて手に入るじゃないかと。でも知識というのは、人から人へ、あるいは本から人へ、時には暴力的な形で、身体の中に飛び込んでくるものなのです。経験しないと身体化はできない。それこそが直観力です。」

小学校の時代から、身体で体験させることや、体験したこと感じたことを書くということを大切にして、想像力と直観力を伸ばしていきます。